

平成30年度 事業報告書



社会福祉法人 平和の聖母

1 法人理念および基本方針

法人理念

かけがえのない尊厳ある人が集い、共に安らかに暮らし、共に学び成長し、共に働き喜び、聖母マリアのようにカトリックの愛の精神に根ざした社会福祉の開花を目指します。

基本方針

1. 私たちは、一人ひとりの可能性と持てる力に応じた暮らしを支援し、家庭生活と社会生活のあらゆる面への参画に共にチャレンジします。
2. 私たちは、人と人との交わりや助け合いを通して、自己と他者が共に成長していく社会福祉の仕事に誇りを持ち、感謝します。
3. 私たちは、より効果的で人道的な経営を探求し、地域福祉を展開することで、広く共通善に貢献します。

平和の聖母の祈り

わたしたち法人の名前をいただいた平和の聖母
人と人との平和を目指し
わたしたちがつねに
苦しむ方々、悲しむ方々、社会的に弱い立場の方々に心を合わせ
平和のために奉仕することができますように
また、わたしたち自身も
弱さのうちに生きる者であり、平和の聖母のご保護のうちに
歩み続けていくことができますように

2 平成30年度事業報告における総括

平成30年度は、既存事業の経営の安定化と質の向上をという目的を掲げて、介護報酬、障がい福祉サービス等報酬および診療報酬のトリプル改定に取り組んだ。経営的には介護予防・日常生活支援総合事業への完全移行の影響もあり、これまで経営の中心的役割を担ってきた通所介護事業への影響が顕著であり、介護保険事業は例年に比べ厳しい結果となった。一方、障がい福祉サービス事業は早い段階で就労継続支援B型事業から生活介護事業に移行していたこともあり、報酬改定の影響が少なかった。結果として、法人全体では例年と遜色がない経営状況であった。

しかし、昨今の慢性的な福祉人材不足の厳しさを痛感する1年でもあった。新たな福利厚生制度LTD（Long Term Disability）保障制度の加入や記録が苦手な人でも入力ができる音声入力装置などを導入し、既存職員にとっても働きやすい環境を構築した。特に障がい者雇用においては、重点的に取り組み、それまで障がい福祉サービス事業の生活介護利用者であった方などを直接雇用し、現在5名の障がい者手帳保持者が法人の職員として現在勤務している。長い間、授産と言われてきた旧体制の障がい者就労支援事業から、本法人独自の障がい者就労への道を一歩進めることが出来たと思う。

また、久留米市中心市街地である一番街に障がい者支援施設ウェルフェアマリアの従たる事業所として7年間展開していた「共に働く場まちづくりワークショップマリア」を建物の耐震化や旧式オンデマンド印刷機の買換えの問題から閉鎖し、本体施設で事業を継続することにした。隣接する聖マリア学院大学の「ほっとステーションマリア」と共に地域の方のご支援をいただけたことに感謝したい。地域貢献事業としてはメゾンマリアキッズクラブ（子ども食堂）が開始2年経過したが、金丸小学校の子どもたちが学校帰りに自主的にボランティアに立ち寄ってくれるようになり、大きな喜びにつながった。社会福祉法人にかかわらず、社会の目は様々な角度から経営を検証する時代に突入してきた中、本法人がカトリックの理念に基づき実践してきた事業内容を以下に報告する。

3 平成30年度事業報告における重点項目

(1) ダイバーシティ人材を活用した働き方改革の実現に向けた取り組み

今年度は、省庁及び地方自治体等の公的機関において、障がい者雇用水増し問題がクローズアップされた年度であった。そのような中、本法人はダイバーシティ人材活用の第一歩として、障がい者雇用に積極的に取り組んだ。結果、現在5名の障がい者手帳保持者が勤務してくれているが、その内の4名は元々施設入所者や就労継続支援B型事業の利用者である。一般就労と福祉的就労の垣根を超え、障がいのある方でも合理的配慮により働くことが出来る方法を模索し実践した。今後は施設入所からの地域移行を含め、地域で暮らしたいという人たちの支援をさらに進めていきたい。

また、昨今の慢性的な福祉人材不足を解消するために、新しい福利厚生制度として、健康保険における傷病手当金の上乗せ制度LTD（Long Term Disability）保障制度に加入し、職員の方が一の病気や怪我による離職時の補償を充実させた。日本語やコンピューター入力による記録が不得意な職員でも音声により入力できる音声入力装置ボイスファンを導入し、職場環境を整えた。

(2) 地域貢献活動と戦略的広報への取り組み

ウェルカムメゾンマリアプロジェクトとしてキッズクラブ（子ども食堂）を始めて2年が経過したが、金丸小学校の子どもたちが開催日以外にもボランティアに立ち寄ってくれるなど、自主的な動きが始まったことが大きな喜びである。聖マリア学院大学の学生もボランティアに参加し、ケアハウス入居者の方々との交流が広がってきた。その様子は新しい広報ツールのツイッターでリアルタイムに発信してきた。

また、生計困難者に対する相談支援事業として「ふくおかライフレスキュー事業」に参加し、地域連絡会議に定期的に参加している。くるめクリーンパートナーにも新たに参加し、ウェルフェアマリアの利用者の方たちも参加してくれている。新しいホームページは2019年度に作成することになった。

(3) 理念に基づく教育の実践

法人の理念であるカトリックの愛の精神に根ざした社会福祉の開花を目指し、法人全体で充実した研修を行った。今年度は外部講師にカトリック司祭である寺浜亮司師（本法人評議員）をお招きし「老いと死を超える希望の祈り」というテーマで隣人愛や慈善の精神についてご講義をしていただいた。また保健医療経営大学教授で元福岡県社会福祉士会会長の泉賢祐講師（本法人評議員）には、高齢者や障がい者の「意思決定支援について」というテーマで学術的な研修を行っていただいた。いずれも職員だけでなく、施設の入所者やグループホームの家族なども参加していただき、職員と地域向けの研修会として好評であった。

4 各事業における重点項目

(1) 障がい者支援施設ウェルフェアマリア

我が国の人口減少が進む中、昨今の人材不足は我々福祉業界に大きな影響を与えている。当施設も例外ではなく、毎年一定数ある職員の退職に伴う補充が年々厳しくなっていることを痛感した年であった。より良い福祉サービスを実践するためには、優秀な人材が居て、かつ満足度の高い職場でなければならない。平成30年度は人材不足の中、勤務シフトの調整が厳しい状況をどうにか乗り切った感がある。障がい者支援施設ウェルフェアマリアにおいては、これまで久留米市内で従たる事業所「共に働く場まちづくりワークショップマリア」と分散していた職員を本体施設に集約して、さらに障がい者就労として働いていた方も法人の職員として雇用するなど、人材の適正な配置と安定化を進めた。障がい者就労支援事業における生産活動の主な収入源である印刷業の充実を図るため最新のオンデマンド印刷機を導入することで、より効率的な事業展開が出来る体制を整えた。

(2) 共に働く場まちづくりワークショップマリア（相談支援事業および生産活動）

平成23年6月以来久留米市中心市街地で就労支援事業と相談支援事業の活動拠点としていた「共に働く場まちづくりワークショップマリア」の事務所を平成31年3月31日で閉じ、本体施設ウェルフェアマリアに移管した。地域において障がいのある方々が働く姿を目にすることで久留米市一番街にも様々な事業所が増え、地域福祉の推進と向上に少なからず貢献できたと思う。貸ビルの耐震化問題や旧式オンデマンド印刷機の買替え費用の課題があったが、本体施設に移管することで事務所や駐車場の家賃負担分を削減し、最新のオンデマンド印刷機をリース契約した。以前、就労継続支援B型事業や生活介護事業の利用者として働いていた方々のうち4名の方がウェルフェアマリアの職員として働くことになった。遅刻や欠勤もせず、毎日仕事に励む姿は、健常者や軽度の入所者にとっても励みになっていると感じる。同じ時期に聖マリア学院大学の「ほっとステーションマリア」も閉鎖になったため、地域における新しい拠点は、今後の動向を見ながら検討していくことになる。併せて、相談支援事業も本体施設に移管した。セルフプランの当事者が多い久留米市においては、相談支援専門員に対して、多くの機能や専門性を求められるようになってきている。

(3) ケアハウスメゾンマリア

今年度も複数の入退居があったが、連絡調整等を細やかに進めることでスムーズに対応でき、継続して満床（100%）での稼働を維持することができた。特に退居者については、外部の事業者等と連携することで円滑かつ負担を軽減した移行に繋げることができた。また、依然として2人部屋の待機者は少数であるため、地域包括支援センター等へ定期的に情報提供することでその確保に繋がった。サービス面では、入居者全体の高齢化も進み心身機能も段階的に低下傾向にあるため、行事やイベント等を通して入居者の役割の創出を図った。ただし、未だ十分とは言えないため、次年度以降はその部分に注力していく。

続いて、地域貢献に関する分野では、当法人での中心的役割を果たすべく、キッズクラブ（子ども食堂）、ゆうゆうサロン、中学生学習支援を主に実施した。キッズクラブでは、児童の主体性確立の一つとして、活動内容を共同で企画する機会を設けた。加えて、キッズクラブ以外のイベント等への参加を呼びかけることで、交流の頻度を高めることができた。このことは、次年度から予定している新たな地域活動の一端にも繋がると思われる。また、地域の社会資源として、ゲストルームの一時的な利用の促進、地域包括支援センターと協働でのイベントの実施等、柔軟に施設機能を活用することができた。

(4) デイサービスセンターメゾンマリア

利用者減少に歯止めがかからず、加えてその初動も大きく遅れをとったことから、前年比大幅な減収となった。利用者獲得に向けた活動を怠ったわけではないが、その内容が単一的であったことが要因としてあった。そのため、まずは細やかなニーズの把握と即応を図ることとし、それに合わせてサービスの抜本的な変更に着手し、加えて、本事業は競合する事業所も多いことから、独自性を高めその有効性も積極的に提示する必要がある。これらの取り組みは、現在進行中であるため、その結果については次年度の事業実績に反映すると思われる。

一方、地域包括ケアシステムにおいては、在宅サービス継続に不可欠な存在としての役割を再認識する必要がある。それに向け、まずは併設事業との連携をよりスムーズにさせることとした。それにより、軽度者から重度者、困難事例まで幅広い受け入れに繋がったと思われる。依然として他事業と比較し収益性が高いと認識されていることから、特に軽度者へのサービス提供の見直しとして、日常生活に直結するサービスプログラムの策定にも着手している。これらを進めながら、介護報酬改定等、制度の動向を注視し事業所の在り方や事業自体の今後の方向性を適宜検討していく。

(5) メゾンマリアホームヘルプサービス（訪問介護・障がい福祉サービス）

慢性的な人員不足の中、求人は継続したものの目立った反応は無いのが現状であったため、既存利用者への安定したサービス提供に重きを置いた。利用ニーズはあるものの新規利用者の受け入れまで至れないケースが多く、かつサービス提供責任者の要件も厳格化され、社会情勢的にも今後もこの人員不足の解消は厳しい見通しであり、今後の事業方針を模索した年度であったとも言える。撤退を余儀なくされる事業所も少なからずあり、報酬改定等を始め制度の動向に影響を受けやすい事業であるが、これまでのサービスの質の面では対外的に高い評価を得ているため、次年度以降もそれを一つの特色として事業運営を継続する。

このような状況下、職員個々のモチベーションアップに向けて、柔軟なシフト調整やサービス提供責任者とのコミュニケーションの機会を多く図ることで就業環境の整備に努めた。対予算面では十分とは言えない中でも、一定のサービス提供体制は確保できたと言える。それと併せて、事業所としてスキルアップや資格取得へのサポートにも取り組める姿勢を打ち出しており、更なる安定化に向けた機会にもなると思われる。また、併設事業との連携も深まっており、一体的なサービス提供に繋がっていることは一つの強みでもあるため、それを継続させながら今後の事業方針も具体的に検討する必要がある。

(6) メゾンマリアケアサポート

実務者の2名体制によって、中重度者や地域包括支援センター等からの依頼の受け入れが可能となり、延べ利用者数も対前年度比増となった。中重度者の体調不良や入院等による変動はあったが、依頼の頻度も同様であったため、総合的には利用者数自体は安定していたと思われる。ただし、事業の特性上、次年度には定員を満たすことが予想され収入も上限に近い。そのため、まずは前年度比増の達成を最低限とし、利用者数獲得を進めながら、新たに入退院等の情報提供に係る加算取得を積極的に図る。

実務面では前年度の反省を踏まえ、医療機関とのスムーズな連携に重きを置いたことで、一定の基準は達成できた。医療分野へのニーズは非常に強いことから、現状に満足せず更なる連携に向け知識とスキルアップを目指す。ケアプラン作成では、実務者の連動性と客観的視点を軸に社会資源の最大限の活用と利用者家族も意識したマネジメントを徹底した。それにより、利用者との関係性がスムーズに構築できたケースもあり、多様な支援展開の必要性和焦点の拡充の重要性を認識できる機会となった。このことは、次年度の事業所の指定更新への対応や主任介護支援専門員への取得に向けたスキルアップの機会にも繋がるとと思われる。

(7) グループホームメゾンマリア

今年度はより安定した事業運営に向けてサービス提供体制に関する加算算定を進めた。併せて、安定した稼働率により、概ね順調な事業実績であったと言える。その中で、4名の方の看取り支援を実践することができた。その方らしい最期に向け、本人に限らず家族支援も意識し、その心情や意向をでき得る限り汲み取ることにした。加えて、職員間のサポート体制と外部との連携を充実させることで、寄り沿ったメゾンマリアらしい支援を実践することができた。このことは、看取り後であっても途切れていない家族との関係性が物語っており、これらを通して得られたものは、今後の看取り支援の充実にも繋がるとと思われる。

外部評価の受審では、前回以上に自己評価のプロセスや客観的評価によって新たな課題が見出せており、今後の適切なサービス提供に繋がるとと思われる。中でも、権利擁護等に関する項目は一定の知識は得られたが、十分とは言えないため、外部機関の活用や研修等を繰り返すことで更なる制度理解を進める。地域活動面では、運営推進会議等を通して地域の認知症に係るイベント等への協力依頼も増加しており、積極的に参画することで地域密着型サービスとして役割の一端を担うことができた。実務面では開設から一定期間経過したことによる気の緩みを払拭できるよう、接遇面での意識向上とその継続を図った。職員によってそのレベルに未だ差異があるため、継続して取り組む必要がある。また、退居後の受入の円滑化に向けて、その具体的な手順を整備しているところである。

5 法人運営

(1) 理事会の開催

実施月	議案等
5月31日	①平成29年度事業報告②平成29年度決算③平成29年度監事監査報告④平成29年度社会福祉充実残額の算定結果の報告⑤理事長の職務の執行状況報告（平成30年3月～5月）⑥ふくおかライフレスキュー事業の実施⑦福利厚生LTD（Long Term Disability）制度の加入⑧平成30年度定時評議員会の日時・場所及び議題等
10月5日	①障害者総合支援法に基づく実地指導の結果②資金収支の推移③理事長専決事項の報告④積立金の取崩⑤規程の制定および改正⑥従たる事業所ワークショップマリアの今後
12月7日	①資金収支の推移②規程の改正③積立金の取り崩し④平成30年度第一次補正予算⑤オンデマンド印刷機の導入⑥第1回臨時評議員会の日時・場所及び議題等
3月20日	①運営実績報告②理事長の職務の執行状況報告③平成30年度第二次補正予算④平成31年度事業計画⑤平成31年度予算⑥第2回臨時評議員会の日時・場所及び議題等

(2) 評議員会の開催

実施月	議案等
6月22日	①平成29年度事業報告②平成29年度決算③平成29年度監事監査報告④平成29年度社会福祉充実残額の算定結果の報告⑤ふくおかライフレスキュー事業の実施⑥福利厚生LTD（Long Term Disability）制度の加入
12月14日	①積立金の取り崩し②平成30年度第一次補正予算③従たる事業所ワークショップマリアの閉所④オンデマンド印刷機の導入⑤規程の制定および改正
3月28日	①平成30年度第二次補正予算②平成31年度（2019年度）事業計画③平成31年度（2019年度）予算

(3) 監事監査の実施

実施月	内容	出席者	開催地
5月30日	平成29年度決算に係る監事監査	監事	メゾンマリア

※5月末～6月にかけて法人本部でインフルエンザがまん延したため日程を調整し場所をメゾンマリアで行った。

(4) 苦情解決第三者委員会報告会

実施月	内容	出席者	開催地
9月4日	苦情解決第三者委員会報告会	第三者委員	メゾンマリア

(5) 法人運営管理委員会

実施月	内容	出席者	開催地
毎月	法人運営管理委員会	運営管理委員	メゾンマリア

(6) 広報誌の発行

発行月	発行冊子	内容	対象
9月20日	平和の聖母 第3号	2018年度事業報告	家族・地域・行政
3月31日	平和の聖母 第4号	2019年度事業計画	家族・地域・行政

6 法人研修等

実施月	研修内容	参加者	開催地
5月	久留米市社会福祉法人役員研修会	施設長	えーるピア
6月	カトリック司祭寺浜亮司師による理念の勉強会	入所者・家族・地域・職員	メゾンマリア
9月	泉賢祐教授による意思決定支援の講義	入所者・家族・地域・職員	メゾンマリア
10月	消防本部による普通救命講習会	職員	メゾンマリア

7 地域における公益的な取組

実施月	取組名称	取組内容	実施場所
毎月	メゾンマリアキッズクラブ	無償で行う地域子ども食堂	メゾンマリア
4月	メゾンマリアバザー	地域向けバザー	メゾンマリア
6月・7月	久留米ほとめき通り商店街土曜夜市	地域活性化の取り組み	久留米一番街
6月・7月	認知症サポーター養成講座	地域向け講習会	メゾンマリア
9月	金丸校区認知症声掛け訓練	地域向け講習会	コミュニティーセンター
毎月	くるめクリーンパートナー事業	近隣の清掃	上津町・津福本町
8月	花火を見る会	花火大会への障がい者の参加支援	総合福祉センター
毎月	スペシャルオリンピクス自販機の設置	一部売上金の寄附	久留米市
毎月	SEL P自販機の設置	一部売上金の寄附	ウエルフェアマリア
3月	ボランティアフェスティバル実行委員会	ボランティアの育成	ウエルフェアマリア
12月	クリスマス会	地域住民	メゾンマリア
毎月	ゆうゆうサロン	地域活動	メゾンマリア
随時	おしゃべり会	地域活動	メゾンマリア
毎月2回	中学生学習支援	金丸校区中学生	メゾンマリア
8月・9月	平成30年7月西日本豪雨ボランティア	被災住宅の瓦礫処理	広島県呉市
随時	職場体験等実習	教職課程実習生受け入れ	ウエルフェアマリア
随時	ふくおかライフレスキュー事業	生計困難者のための相談支援	久留米市

8 学生実習および海外視察受け入れ

期間	事業所	依頼元	内容	人数
5/14~6/9	グループホーム	九州大谷短期大学	介護福祉士養成実習	2
5/15~5/17	デイサービス	聖マリア学院大学	在宅看護実習	3
7/11~7/13	デイサービス	久留米高等技術専門学校	現場実習	2
7/19~7/20	ホームヘルプ	久留米高等技術専門学校	現場実習	2
8/13~9/14	ケアハウス	久留米大学	相談援助実習	1
8/20~8/23	デイサービス	久留米大学	相談援助実習(現場)	1
9/20・9/21	デイサービス	聖マリア学院大学	コミュニティー演習	26
10/18・10/24・11/14・11/18	デイサービス	サービス事業者協議会	介護体験実習	各1
11/13~11/15	デイサービス	聖マリア学院大学	在宅看護実習	3
11/14~11/16	デイサービス	聖マリア学院大学	在宅看護実習	3
12/13・12/14・12/18	デイサービス	久留米高等技術専門学校	施設実習	3
7/19~7/20	ホームヘルプ	久留米高等技術専門学校	現場実習	2
12/18~12/20	デイサービス	聖マリア学院大学	在宅看護実習	3
12/18~12/20	ケアサポート	聖マリア学院大学	在宅看護実習	2
12/19~12/20	ホームヘルプ	久留米高等技術専門学校	現場実習	2
3/12~3/14	ケアサポート	聖マリア学院大学	在宅看護実習	2
7/24~7/25	ウエルフェアマリア	江南中学校	教員研修	1
8/6~8/10	ウエルフェアマリア	久留米工業大学	介護等体験	1
8/20~8/24	ウエルフェアマリア	西南学院大学	介護等体験	1
9/3~9/7	ウエルフェアマリア	九州共立大学	介護等体験	1
9/3~9/7	ウエルフェアマリア	武蔵野音楽大学	介護等体験	1
7/5	メゾンマリア	韓国釜山カトリック大学校	視察見学	12
8/2	メゾンマリア	台湾崇仁看護管理専科学校	視察見学	2